

問1 天智天皇の後継者争いに勝利して即位した天武天皇が、その後の政治において目指した国家のあり方として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 三重公立入試 類似）

1. 天皇を中心とした強力な中央集権による律令国家の建設
2. 有力な貴族が政治の実権を握り、天皇を補佐する摂関政治の確立
3. 地方の豪族がそれぞれの土地を私有し、独立した権限を持つ封建制の導入
4. 武士が政治の表舞台に立ち、幕府を開いて軍事力を中心に統治する仕組み

問2 7世紀の朝鮮半島および東アジアの情勢において、日本が百済を支援して白村江の戦いに参戦した経緯を説明したものとして、正しいものはどれか。（2021年 三重公立入試 類似）

1. 唐と新羅が同盟を結んで百済を滅ぼしたため、日本は旧来の同盟関係に基づき百済の復興を支援した
2. 高句麗が唐と結んで南下したため、日本は百済と新羅の双方を守るために大規模な軍を派遣した
3. 新羅が唐を裏切って日本に助けを求めたため、日本は百済の遺臣と共に新羅を支援した
4. 隋が百済を圧迫したため、聖徳太子は小野妹子を派遣して百済への軍事的支援を約束した

問3 7世紀後半、天智天皇の死後に発生したその後継者をめぐる大規模な内乱について、この争いに勝利した大海人皇子が即位後に行った政治的な取り組みとして、最も適切なものはどれか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 天皇の権威を大幅に強化し、律令国家の完成に向けた新しい政治の仕組みを整えた。
2. 摂政や関白の役職を確立し、藤原氏が政治の実権を握る基盤を作った。
3. 武士の力を初めて政治に利用し、全国に守護や地頭を配置して統治を強めた。
4. 冠位十二階や十七条の憲法を制定し、家柄にとらわれない人材登用を目指した。

問4 7世紀から10世紀初めにかけて中国を統一した唐が、当時の日本や東アジア諸国に与えた制度的な影響として、最も適切なものはどれか。（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 土地や人民を国家が直接支配し、法律に基づいて統治を行う律令制度を完成させ、周辺諸国の手本となった。
2. 武士が政治の表舞台に立つ封建制度を確立し、日本における鎌倉幕府の成立に直接的な影響を与えた。
3. キリスト教の布教とともにヨーロッパの科学技術を導入し、東アジア全域に西洋文化を広めた。
4. 朱子学を国学として採用し、身分制度を厳格に管理する江戸幕府の統治の仕組みを構築した。

問5 660年に唐と新羅が連合して百済を滅ぼし、その3年後に日本が百済復興を助けようとして唐・新羅連合軍に大敗した「白村江の戦い」という歴史的背景を踏まえ、日本が九州北部に「防人」を配置した直接的な目的として最も適切なものを選びなさい。（2020年 広島公立入試 類似）

1. 唐や新羅の軍勢が日本列島へ攻め込んでくる事態に備え、国防を固めるため
2. 九州地方で頻発していた政府への反乱を武力で鎮圧し、国内を安定させるため
3. 九州北部の広大な未開墾地を兵士に耕作させ、大陸への輸出用穀物を生産するため
4. 大陸の先進的な文化を取り入れるため、唐からの使者を九州で手厚く迎えるため

問6 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、倭国（日本）の政権は、大陸からの侵攻を非常に強く警戒するようになりました。そのための防衛対策として、九州地方を中心に実施された内容として正しいものはどれですか。（2024年 高知公立入試 類似）

1. 大宰府の北側に水城（みづき）を築き、沿岸部に防人（さきもり）を配置した
2. 元軍の再来に備えて、博多湾の沿岸に石築地（元寇防壁）を築いた
3. 東北地方の蝦夷（えみし）を制圧するために、多賀城を築き鎮守府を置いた
4. 白河上皇が北面の武士を組織し、御所の警備と寺社の強訴を防いだ

問7 聖徳太子（厩戸皇子）が小野妹子を隋に派遣した際、その外交方針や目的として最も適切な記述はどれですか。（2026年 青森公立入試 類似）

1. 中国の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、大陸の進んだ政治制度や文化を学び取ろうとした。
2. 中国の皇帝から「倭王」としての称号を得ることで、国内の有力豪族を支配する正当性を確立しようとした。
3. 中大兄皇子が進める大化の改新を成功させるため、隋から大規模な軍事支援を取り付けようとした。
4. 天武天皇が定めた律令制度を中国に輸出することで、日本の国際的地位を高めようとした。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 天皇を中心とした強力な中央集権による律令国家の建設	壬申の乱に勝利して絶大な権力を手にした天武天皇は、それまでの豪族たちの勢力を抑え、天皇に権力を集中させることを目指しました。この方針は後の大宝律令の完成へとつながり、日本における法に基づく統治（律令国家）の基礎となりました。
問2	答え 1 唐と新羅が同盟を結んで百済を滅ぼしたため、日本は旧来の同盟関係に基づき百済の復興を支援した	当時の朝鮮半島では、大帝国である唐と結んだ新羅が勢力を拡大し、660年に百済を滅亡させました。日本は百済から逃れてきた遺臣たちから復興の支援を要請され、当時の最高権力者であった中大兄皇子がこれを承諾して出兵を決断しました。この戦いは当時の東アジア全体を巻き込んだ大規模な国際紛争でした。
問3	答え 1 天皇の権威を大幅に強化し、律令国家の完成に向けた新しい政治の仕組みを整えた。	天智天皇の死後に起きた壬申の乱で、天皇の息子である大友皇子を破った大海人皇子は、天武天皇として即位しました。天武天皇は、それまでの豪族中心の政治から天皇中心の強力な中央集権体制への転換を図りました。具体的には、飛鳥浄御原令の編纂に着手したり、国史（後の『古事記』や『日本書紀』）の編纂を命じたりするなど、律令国家の基礎を固める重要な役割を果たしました。
問4	答え 1 土地や人民を国家が直接支配し、法律に基づいて統治を行う律令制度を完成させ、周辺諸国の手本となった。	唐は律・令・格・式の法体系を整え、強力な中央集権体制を築きました。日本はこの仕組みを取り入れるために遣唐使を派遣し、大宝律令などの制定を通じて律令国家への道を歩みました。他の選択肢は、後の時代（中世や近世）の出来事や異なる文化圏の内容です。
問5	答え 1 唐や新羅の軍勢が日本列島へ攻め込んでくる事態に備え、国防を固めるため	660年の百済滅亡と、663年の白村江の戦いにおける日本の大敗により、当時の日本（倭国）は唐や新羅による報復的な侵攻を受ける可能性を非常に危惧しました。このため、天智天皇は大宰府などがある九州北部の守りを固めるために「防人」を配置し、あわせて水城（みずき）と呼ばれる堤防や、山城などの防御施設を築いて、国家存亡の危機に備える体制を整えました。
問6	答え 1 大宰府の北側に水城（みずき）を築き、沿岸部に防人（さきもり）を配置した	白村江の戦いで敗北後、天智天皇（中大兄皇子）は唐・新羅の侵攻に備え、対外防衛の拠点である大宰府を保護するために水城や山城を築きました。また、東国の兵士を「防人」として九州沿岸の警備に当たらせ、国家としての守りを固めました。他の選択肢は鎌倉時代の元寇対策や、平安時代の東北経営・院政期の説明です。
問7	答え 1 中国の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、大陸の進んだ政治制度や文化を学び取ろうとした。	聖徳太子は隋との交渉において、これまでの「貢ぎ物をして臣下となる」形式ではなく、対等な立場での国交を樹立しようとした。これは、周辺諸国に対して日本の自立性を示すとともに、進んだ仏教や政治の仕組みを主体的に取り入れ、天皇を中心とした中央集権体制を整えるための手段でもありました。選択肢にある中大兄皇子や天武天皇は、聖徳太子よりも後の時代の人物であり、この時期の出来事とは区別する必要があります。